

近未来技術実証特区検討における ベンチャー活用の可能性について

平成27年3月30日

慶應義塾大学 政策・メディア研究科
特別招聘教授 夏野 剛

近未来技術ベンチャー活用に関わる現状課題

- 圧倒的に足りない「信用」と「機会」
 - 公的セクターに「相手にされない」「門前払い」
 - 公務員は規制緩和や特例措置に前向きでない
 - 疑わしきは相手にせず。
- 機能していないスタートアップ支援型VC
 - 圧倒的に足りないリスクマネー
 - カネをもつ者と使いたい者のマッチング不足
 - 「グノシーの悲劇」
- 東京一極集中
 - VCの投資先の偏在
 - エンジニア偏在
 - 人的ネットワークの偏在

近未来技術実証特区を考える上での問題認識

- 先端地区引き上げ型施策は充実
 - やる気のある自治体に将来性のある技術特区を設置
 - やる気のある企業を引きつける話題性
 - リスクマネーをもつベンチャーも参入
- 裾野をどう広げるか
 - やる気のそれほどない自治体をやる気にさせる仕組みは？
 - やる気のそれほどない企業もやる気になる仕組みは？
 - リスクマネーを供給したくなる仕組みは？
- トップ引き上げ型とボトム底上げ型の二刀流が必要
 - 波及効果を最大化する
 - 想定外のアイデアや意外な組み合わせを創出できる仕組み

試案1 ; 「準」特区制度を新設する

- 各地方自治体が一つだけ規制緩和できる
 - 特区ほどの大々的な調整がいらぬ
 - 各自治体が一つだけ選び、集中して規制緩和
 - 一つなのでアナウンス効果も大きい
- 民間部門への波及効果を最大化する
 - 企業は最適な地に移動するインセンティブになる
 - 中央政府がプラットフォームを用意して、検索を容易にする
- 地方の創造性と多様性を刺戟する
 - 中央に対する不満と期待から、自己責任へ
 - 自らに最適なことをするために知恵を絞る

試案2；金融支援の枠組みを作る

- スタートアップ事業に対してリスクマネーを供給する
 - 産業革新機構や地域活性化支援機構との連動
 - 場合によっては新しいファンドの組成
- リスクマネーの供給を促す仕組みを用意する
 - マッチングファンド
 - リターンに対する税優遇
- IT系スタートアップ企業に資金供給し創業支援
 - 特区、準特区と連動して起業を支援する
 - 特区発ベンチャーを増やし地域経済を活性化させる

試案3 ; 先進成功事例を「創り出す」

- ある程度確度の高い案件に対する徹底的な支援
 - 早い段階で成功事例をつくる
 - ガバナンス委員会を組成し、副大臣・政務官クラスが進捗をウォッチできるようにする(規制緩和圧力)
- 人的ネットワークの提供
 - 継続的にサポートするために有識者を集めた近未来技術特区進捗管理支援委員会を組成
 - 必要なタイミングで必要な人的支援を行えるようにする
- 情報の発信によって世間の耳目を引く
 - 定期的なイベント、プレスなどにより常に進捗状況を発信し続ける仕組みを作る

まとめ

- 引き上げ型(先進特区)と底上げ型(準特区)の両軸を
 - 少数の先行事例作りだけでなく多数事例創出の仕組み作りも。
 - 見えているものの支援と、見えてないものを創発する仕掛けを。
- カネの循環をよくする金融的枠組みを
 - 金融業界、VCの「右へならえ」主義を活用(悪用)する仕掛けを。
 - ファンド、マッチングファンド、リターンへの優遇などの金融的支援枠組みの検討を。
- 政府主導のより強力な先行事例作り体制を
 - 自律的拡大フェーズに至るまでは政府に強力な支援体制を。
 - 人的ネットワーク支援の枠組み(人材マッチング等)を。
 - 政府主導の情報発信強化を。